



TITLE:

初めて望遠鏡を覗きて

AUTHOR(S):

岩村

---

CITATION:

岩村. 初めて望遠鏡を覗きて. 天界 1925, 5(59): 473-474

ISSUE DATE:

1925-11-25

URL:

<http://hdl.handle.net/2433/160326>

RIGHT:

# 初めて望遠鏡を覗きて

大連 岩 村 生

八月も未近くなりましてから、大連博覽會第二會場に獨逸の Carl Zeiss 會社が四吋位の望遠鏡二臺を備付け希望者に天體觀望を許しました。私も天文寫眞だの「天界」八月號だの持參して見に行きました。

私は今迄僅に八倍の双眼鏡で天を仰ぎ「アンドロメダ」の大星雲を簡易星圖を頼りに此頃漸く發見した位の程度で未だ一度も望遠鏡を覗くの機會はありませんでしたから、胸を躍らせながら八月卅一日の天長節の佳節を卜し夏木立の電氣遊園丘上に參りました。而して初めて太陽の黒點を見た時の喜び！

其夜も幸ひ空がよく霽れて居まして折柄十三日の月が磨ける如く中天に懸つて居ます。五十倍位の倍率で之を覗きましたら、今迄双眼鏡では平面さしか見えなかつた月面が美事な球體になつて映り出しましたので一驚を喫しました。ティヒヨ山や、コペルニクス山、輝き渡る放射線條、大噴火口の凸凹模様から廣い海や、危難の獨立海等迄手に取る様に見えます。何と言ふ美しさでせう！ 私は之こそ眞の美術品で地上の如何なる名匠の手になつた傑作も之には優り得ないと思ひまし

た。

次に只今射手座に居る木星を見ました。數本の横縞を木星面上に認めましたのは勿論愉快でありましたが、更に愉快で堪らなかつたのは、其四衛星が「天界」所載の木星衛星表の八月卅一日の位置に寸分違はぬ處に居るのを發見した事でありました。「天界」が山本教授の御歸朝により大發展をしました其効果が忽ち、私如き全くの素人に迄及ぼうとは皆さんも豫が、期されなかつた事でしよう。

兎角してゐる内に、同好會の先達、西岡芳涯先生も見えられ、ンドアロメダ、星即「アルマク」を見せて貰ひました。私は思はず、あつゝ驚喜の叫びを上げました。御覽なさい、綠色の可愛々々星と黃色の美しい星とが、連星として、そこにきら／＼輝いて居るではありませんか。

私は思ひます。各地の同好會に此位の望遠鏡が一臺づゝあつたら會員數を理想通り増す事も容易であらう。紙上や口頭で、いくら天の美を説いても、百聞一見に如かず。素人を此趣味に惹入れるには星辰の實地觀望に皆を誘ふ事が一番の捷徑ではありますまいか。

私が星座の名前を唯一つ覺えたのは一昔前で、實に或春の夕、費島マニラ市の古城壁に踞してオリオン星座を大將軍星座と稱して年若き船乗りに教はつた時でした。腰帶に短劍をつるし、肩怒らし、兩足踏張つて堂々たるオリオンの姿は其時以來、私に取りまして忘れる事の出来ない空の印象でありました。其後數年を赤道以南の土地に過し、夜毎南十字星を仰ぎ見ながら、未だ進んで星座の研究に入らなかつたのは、今日になつて誠に残念でなりません。

全國の中等學校で課外講義としてでもいゝから「簡易星圖」を開て肉眼で星を見るの趣味を普及せしめたら、後來學生達はこれ程の喜びを感じるかも知れません。私等も、もつと早く吉田氏著「肉眼に見ゆる星の研究」を讀んで居たら、南天の諸星座を充分覘く事が出來て、どんなにか嬉しかつた事であらうと思ひます。惜い事には、私が右の書を買つて讀み始めましたのは、ほんの一昨年、天長節當夜でしかなかつたのです。然し滿二周年の紀念日に、初めて望遠鏡を覗いて、木星の衛星だの、「アルマク」だの、太陽黒點だのを觀測する事が出來たのは亦一奇と謂つべしであります。

忘れもしない、關東大震災の見舞に上方から、上京の汽車中「肉眼に見ゆる星の研究」を携へて、時々處を辨へぬかの感が、し乍ら徐ろに之を繙き、而して、まだ電燈のつかぬ荒寥たる帝都の燒野原の夜を獨り歩きながら、地上の慘禍を知

らぬけに、きらめく天の星を眺めて感慨に耽つた事を。動もすれば、實利にのみ墮せんとする吾人は、常に眼を無窮の空に馳せ、幽遠なる星影を仰で以て屢々俗腸を洗ふべきだと思ひます。(十四、九、十)

### ——兵營の友より——

拜啓無事に過して居ります。大抵朝四時起床、歸營は通常五時、日によると山で日がさつぷりくれて、八時半やつと廢舎に歸る様になる事もあります。實彈射撃も、なれると一向平氣で、圖的で目前二〇〇米位近くで彈丸が破烈しても何とも思ひません。今朝拂曉射撃で三時半起床、暗い間に北極星によつて射向附與をされました。今朝始めて南天低くカノプスを見る事が出來ました。高原の月夜や星空は又格別美しいものです。山まで片道一里の路、たゞでも好い仕事です。

山 本 先 生

中 村 要